

他者の考えを認めながら、自分の考えを豊かに表現する生徒の育成 ～新聞活用を通じた実践から～

阿賀野市立笹神中学校

1 N I E 実践のねらい

(1) 生徒の実態から

どの教科においても、学習規律を守り落ち着いた態度で意欲的に学習に取り組む生徒が多い。また、学校行事等の集団活動では、協力、団結して活動する姿が見られる。半面、自ら課題を発見する力や、他者の考えを受けとめながら検討・協議する中で課題をよりよく解決し、発信する力に弱さが見られる。そこで、自分を取り巻く人的・物的な環境への興味・関心を高め、表現力を育むために、総合的な学習の時間を中核にしてN I Eに取り組むこととした。新聞を学習のツールとして定着させ、活用を進めることで、自分を取り巻く社会的な問題への視野を広げ、他者との交流を通して考える力、自分の考えを表現し発信する力を高めながら、よりよく生きるための資質・能力の育成を目指す。

(2) 研究主題と NIE 実践の関連

研究を進めるため、「豊かに表現する生徒の姿」として以下を設定した。

- ① 文章や他者との交流を通して伝えたい内容を理解する。
- ② 自分の考えをもつ。その後、他者との関りを通して改めて自分の考えをより具体的にする。
- ③ 自分の考えを明瞭な文章で表現する。
- ④ 必要に応じて、資料・データを視覚化して表現する。

総合的な学習の時間は、様々な場面で新聞活用を工夫できるうえ、他の教育活動とリンクしやすい時間である。上記の姿を目指し、総合的な学習の時間を軸として教育活動全体で取り組む。

(3) 令和 5 年度の課題

11 月 28 日の中間発表会で、指導者の海老名崇様からは、以下の 3 点を御指導いただいた。これらの指導を参考に、令和 6 年度の実践に臨んだ。

- ① 新聞作成の良さである、体験や情報・思考を整理・収束・表現等を各生徒の新聞にあらわれるようにすること。
- ② 新聞記事使用のねらい（課題設定・情報収集・分析・表現等）を明らかにした学習過程にすること。
- ③ 総合的な学習の時間では、地域の中で他者と生きていくため、自分は何ができるか、すべきかを地域学習を通して考える指導計画にする。

2 令和6年度実践の概要

(1) 組織づくり

NIE 実践を推進するにあたり、中核となり推進する NIE チームを組織した。全教育活動にわたる実践のため、学習指導・道德教育・総合的な学習の時間・特別活動・キャリア教育・研究推進のキャップ及び教頭で編成した。小規模校の特性を生かし、少ない労力で機動的に動けるよう、各キャップ間で立案し各分掌に速やかに伝え行動できる体制をつくった。

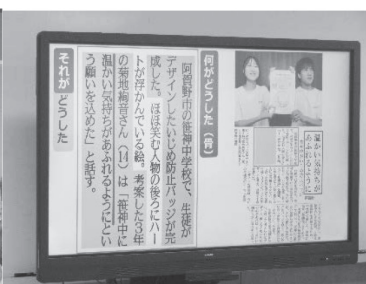
(2) NIE への理解を深める職員研修

新聞の理解を深めるための研修を年2回行う。1回目は、2講義形式（グループ協議を含む）で職員研修会に講師を招聘した（新発田市立第一中学校 海老名 崇様）。2回目は、実際の授業活用を通して御指導をいただく。その成果を職員間で共有した。



(3) 授業等での新聞活用

- ① 講師（新潟日報社 読者推進室 参与 木村 隆 様）を要請し、新聞活用や新聞の読み方・作成方法に関する出前授業を行った（1 学年）。



- ② 令和5年度の課題である1(3)の①～③の視点を盛り込んだ授業改善に取り組んだ。
- ③ 各教科において、年2回は新聞を活用した授業を実施した。
- （例）社会：政治経済分野（税金・政党など）
- ④ 総合的な学習の時間では、新年度初めの新聞活用や、体験学習を通じた新聞作成に全校体制で取り組んだ。

- ・ 新年度の決意を書き、新潟日報の『きらきらキラリ』に応募した。
- ・ テーマに沿って自分の調べたことや体験したことを、事実に基づいて考察した。
- ・ 交流を通して考えを深めた（新聞作成時・新聞発表時）。
- ・ 振り返りは自分の考えやその変容を丁寧に書かせた。
- ・ 作成した新聞は、教室前の廊下に掲示した。



⑤ 生徒会主催「いじめ見逃しゼロスクール集会」で新聞の活用をした。



(4) 環境整備

生徒が新聞に親しめる環境づくりとして以下に取り組んだ。

- ア 図書館前に新聞コーナーを設置する。月平均2社の新聞を設置した。
- イ 併せて図書館前に、N I E 掲示板を設置する。美術部生徒が作成した新聞記事に関するポップを掲示し、多くの生徒が見ることができる環境をつくった。
- ウ 各学年の教室前廊下に、総合的な学習の時間で作成した新聞（体験学習の成果を書いたもの）を掲示した。



(5) 朝の新聞配信

朝読書の時間にコラムを、タブレット配信（ロイロノート）した（月1回）。記事を読んだ感想を書いた。教師がコメントを付けて返した。



新潟日報 2024 年 5 月 16 日掲載

この作文は高校生が書いたものです。これを読んで、自分の生活と関連付けながら感じたことを書いてください。

____年____組 氏名____

私は努力が足りない、何かが足りない、と苦しいです。やってみようと思っても、1週間ほどでやめてしまいます。でも、この高校生が書いた文を読んでみて、少し考えが変わったと思います。特に「未来に悔いがないよう行動を」という一言を見て、今の自分の悔いを感じることがあります。生活をしていく中で、時には「壁にぶつかった時、ひたむきに努力した過去を振り返り、悔いなく今この瞬間を悔いなく生きていく」という文が、今の自分に力を与えてくれます。未来の自分が努力した分だけ喜ぶという意味だと私は思いました。それで、私は「今」を大切に生きて、未来の自分が笑顔で振り返る瞬間に、今が報われる瞬間になるようにしたいと思います。

3 実践例（3年生の活動）

(1) 単元名 阿賀野市のためにできること

(2) 単元について

本単元は、進路学習を通して、「自分の考えをもち、それを行動にうつす実践力」の育成を目指している。学習の中では、高校調べで得た学びをもとに新聞をつくり、進路意識や地域活性化に関わる新聞を活用して自分の考えを構築するきっかけづくりとなる場面を設ける。また、他者と意見を交わし合うことで自分の考えを相手に伝える力も養っていききたい。

(3) 単元の指導計画

次	○学習のねらい ・主な活動内容	評価				教師の手立て
		知	思	主	() 評価規準	
1次 (1時間)	○『住みやすい阿賀野市』について理解を深める。 ・キーワードについて、自分の考えを具体的にまとめる。 ・他者の考えを聞き、グループごとにまとめる。 ・『働くことで得られるもの』などをテーマにグループで話し合う。		○	○	(思)『住みやすい阿賀野市』について、自分の考えをもつことができた。 (主)自分の考えをわかりやすく他者に伝えられた。	・昨年度の活動を、振り返りながら進める。 ・活動が滞っているグループに対して、助言する。
2次 (2時間)	○地域活性化に関する記事から、自分たちの地元に置き換えて、自分の考えをもつ。 ○新聞記事から、自分事としてとらえるきっかけをつくる。 ・新聞記事を読んで、考えたことや感じたことについて書く。 ・地域活性化のために自分が地域にできることを考える。		○		(思)記事をもとに自分事としてとらえ、地域活性化のための考えを記述することができる。	・同世代の考え方に触れられるような記事を選定する。 ・ゲストティーチャーには事前に生徒の資料①を送付しておく。 ・ゲストティーチャーへの事前アンケート

3次 (1時間) 本時	○ワールドカフェ形式で、地域活性化のための提言を通して、より魅力のある阿賀野市について考える。 ・ゲストティーチャーから意見をもらい、あらためて自分たちにできることを考える。 ・ゲストティーチャーにグループでの提言をする。		○	○	(主) 他者との関わりを通して、意欲的に活動している。 (思) 意見交換を行うことで、より魅力のある阿賀野市について、自分の考えを深められた。	・目的をもって活動できるように助言する。
4次 (2時間)	○実践に向けた計画を具体化させ、準備を整える。 ・活動計画の実践に向けて、道具の準備や役割分担等を行う。			○	(主) 計画を行動に移すため、積極的に意見を交わし合って活動している。	・時間や経費など、限られているものの中で計画できるよう配慮する。
5次 (2時間)	○実践を通して、ふるさとに対する思いを深める。 ・グループごとに、地域活性化に関わる活動に取り組む。 ・実践を振り返り、ゲストティーチャーへの礼状を書く。	○		○	(知) 学んだことをいかして、正しく礼状を書くことができた。 (主) 他者との関わりを通して、意欲的に活動している。	・目的を明確にして活動させる。

(4) 本時について

① 目標

・他者との意見交換を通して、自分の考えをわかりやすく他者に伝える表現力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】

・「魅力のある阿賀野市」のために、地域活性化を自分事としてとらえ、課題解決に向けた自分の考えをもつ。

【思考・判断・表現】

② 本単元のN I Eとの関連

本単元では、中学生として地域活性化にどう関わるかを考えるために必要な資料として、情報量が豊富で、発行元によって様々な視点や立場をもつ新聞をグループディスカッションの場面で活用することとした。

② 本時の展開

主な学習活動	○留意点 ●生徒の姿	準備等
1 グループの考える『魅力ある阿賀野市』についてゲストティーチャーに伝える。 5分	○グループ構成時に、生徒の中から進行役を指名しておく。	スクリーン プロジェクター
2 本時の学習課題を確認する。 2分	○学習課題を提示する。 ○本時の目標を全体で確認する。	
【学習課題】 魅力のある阿賀野市のために、中学生として何ができるだろうか。		
3 気になった記事をもとにまとめた自分の考えをグループ内で発表する。 10分	○課題を共有し、実効性のある主張を展開することができるよう、意見に共通点をもつ者同士でグループを組む。 ●他者との意見交換の中で、“魅力ある阿賀野市”のための課題に気がつく。	長机 椅子 模造紙 ペン
4 地域活性化のために中学生としてできることをゲストティーチャーと考える。また、実践について活動をゲストティーチャーと話し合う。 20分	○模造紙の書き方を例示する。 (それぞれが取り上げた記事を必ず貼る。) ●課題をもとにして、より具体的に自分の考えを深める。	
5 グループごとに発表する。 8分	○グループ構成時に、発表係を指名して、準備させておく。	
6 本時の学習を振り返り、新聞記事を活用して、自分の考えを他者に伝えられたかを評価する。 5分	●互いに発表し合うことで、とらえ方の違いを感じ、多面的・多角的な考え方を養う。	

発想柔軟に生徒連携

阿賀黎明高と阿賀津川中

町おこし企画のPR議論

阿賀町の阿賀黎明高校で20日、同高2年生と阿賀津川中学校1年生の計43人が連携授業を行った。高校生が町おこしプロジェクトとして企画した子どもの交流会やジオラマづくりなど11のイベントについて、PR方法を一緒に考えた2写真

両校は連携型中高一貫教育を進めている。今回の授業は、同高の生徒が2021年から企画、実施してい

る町おこしプロジェクトについて、中学生の意見を反映させるのが目的。中高生は11班に分かれ、高校生が自分の考えた企画内容を説明。中学生はチラシのデザインなどを提案し、イベントの進め方は互いに意見を出し合った。各班には町観光協会の職員らが付き、会場の確保やチラシの表現などを助言した。サイクリングツアーを考えた同高の鈴木桐哉さん(16)は「町の人は車やバイクの移動が多い。自転車ですりずりな景色を見てほしい」と思いを語る。

雪椿を活用した温泉と美容がテーマの班に参加した同中の大江真帆さん(12)は「町の魅力である雪椿を通して町外の人に町を好きになってもらえるイベントにしたい」と話した。

各イベントは夏休みや9月に行われる予定。

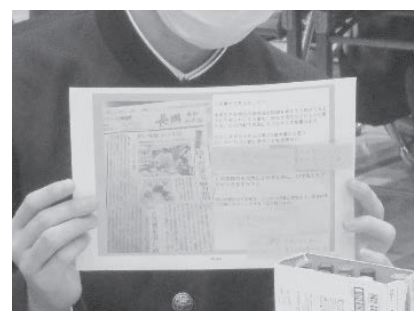


実践の中核とした文献：新潟日報 2023 年 6 月 21 日掲載

(5) 取組の実際

① 個人で選んだ記事を紹介し、自分の意見を提案する。

授業の冒頭で、生徒は班（農業分野、教育分野、観光分野など、選んだ記事が似ている生徒で編成）のメンバーとゲストティーチャーに向けて、自分が選定した地域活性化についての記事を紹介し、それについて何を感じたか、自分なら何をするかを発表した。中学生ができる地域活性化の記事を事前に個人で選定することによって、一人一人違った地域活性化を提案することができた。



② ゲストティーチャーと交流し、各班の地域活性化の意見を練り上げる。

個人で発表した地域活性化の考えをクラゲチャートに貼り出し、全体で共有できるようにした。その後、班長から班としての提案を発表して、具体的な内容を検討した。ゲストティーチャーからは「いつ実施するのか?」「費用はどれくらいなのか?」「誰を相手にするのか?」などの質問を出され、それに生徒が答えていった。



③ 全体で共有する。

授業の後半に、学年全体で提案された地域活性化を発表した。各班からは、「堆肥作り」「餅つき」「ゴミ拾い」「雪かき」「地域の魅力の発信」など、具体的な取組が発表された。終末には授業者の磯部教諭から、この提案を実践に移し、地域を盛り上げていこうと確認された。



4 成果と課題

(1) 成果

- ① 総合的な学習の時間とN I Eを掛け合わせて、自分の考えを豊かに表現することができた。笹神中学校の総合的な学習の時間における各学年のテーマは、「郷土を知る」（1年生）、「郷土と比較する」（2年生）、「共に生きる」（3年生）である。このテーマの活動を、新聞活用や新聞作成を通じて進めていくことにより、各学年の活動が視覚化された。それを他者が見ることによって、郷土への愛着も醸成された。学校評価アンケートによると、郷土に愛着をもっている生徒の割合は93.7%に上った。
- ② 新聞記事から地域活性化の新たな視点を獲得し、考えが広がった。3年生の実践では、各自が地域活性化にかかわる新聞記事を探し、それに基づいて自分の考えを出した。それを互いに紹介することによって、さまざまな地域活性化に触れることができた。
- ③ ゲストティーチャーとの対話によって地域活性化のプランが具体化し、考えが深まった。昨年度の実践では、提案が具体的ではなく、考えが収束しなかった。今年度は「中学生ができる地域活性化」をテーマに新聞記事を探したり、活動を進めたりした。それによって、各班から提案された活動は具体的なものが多かった。



(2) 課題

- ① 1、2年生の総合的な学習の時間でも、新聞を絡めた体験活動を仕組んでいく。2年生の職場体験学習では、地域の課題解決型を目的としている。新聞記事から地域の課題を見つけたり、解決方法を探ったりする授業を絡めることで、学校全体での取組になると感じた。
- ② 3年生の実践では、生徒とゲストティーチャーとの対話をメインとしたので、教師は最低限の指示だけして、必要以上の介入をしなかった。その結果、ゲストティーチャーの話を聞くだけになってしまい、十分に自分たちの地域活性化の提案ができなかったところがあった。中学生の提案を具現化するためにも、教師が話し合いを深める問いを投げかける場面が必要であったと思う。
- ③ 3年生の実践で上がった地域活性化の提案を、今後どのように実践に移していくかが課題である。N I E研究発表後の12月中旬に3度目のゲストティーチャーとの顔合わせ会を実施して、『笹神産餅つき大会』を開催することに決めた。この活動は地域の協力が不可欠であり、下級生から準備をして地域を巻き込んだ活動にしないと地域活性化ができないとわかった。総合的な学習の時間の計画に練り込み、3年間を見越した計画を作っていく必要性を感じた。（石田溪介）



担当 NIE アドバイザー及び担当新聞・通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新発田市立第一中学校 教諭 海老名 崇



笹神中学校の研究会では3年生の総合的な学習の時間「阿賀野市のためにできること」を参観させていただきました。この実践では「魅力ある阿賀野市」のために、地域活性化を自分事としてとらえ、課題解決に向けた自分の考えをもつことをねらいとしていました。

本時では素晴らしい専門家の方々をゲストティーチャーとして招き、生徒は主体的に地域活性化の提案を発表しました。生徒は、地域活性化に関する様々な新聞記事から、それを地元に置き換えて、自分の考えをまとめていました。グループにおいて話し合いが進められ、自分たちの考えが実際に実行できるように具体化されていきました。

本実践の成果は「①新聞記事から地域活性化の新たな視点を獲得し、考えが広がったこと」「②ゲストティーチャーとの対話によって地域活性化のプランが具体化し、考えが深まったこと」「③総合的な学習の時間とNIEを掛け合わせて自分の考えを豊かに表現できたこと」等が挙げられます。

NIE研究が学校作りの大きな柱になっていると感じた2年間でした。これまで研究を進めて来られた笹神中学校の先生方のご尽力に敬意を表するとともに新聞を活用した持続可能な授業モデルを提案していただいたことに感謝申し上げます。

2 担当新聞・通信社

新潟日報社読者局未来読者推進室長 山田 孝夫



笹神中学校には、2年生が取り組んだ手作り新聞の取材でお世話になりました。トップ記事や見出し、レイアウトをどう表現するか工夫した作品が多かったです。計3回新聞を作り、回を重ねるたびにレベルを上げていると感じました。

3年生の公開授業は、新聞記事を踏まえ、農業や観光、教育などの分野で活躍するゲストティーチャーと積極的に話し合っ阿賀野市の魅力づくりを真剣に考えている様子が伝わりました。地域の魅力再発見につながったと思います。

時事通信社新潟支局長 柴田 裕之



1本の新聞記事を題材に、自分たちが暮らす地域をどうやって盛り上げようかと真剣な表情で話し合う生徒たちの姿が強く印象に残りました。各生徒がバラバラにアイデアを披露するのではなく、ゲストティーチャーのアドバイスを受けながら、別の生徒が補足したり、異なる意見を述べたりするなど、互いを尊重し、高め合おうとする場面も見られ、感銘を受けました。新聞記事を「考えるきっかけ」として活用するNIEのさらなる展開に期待しています。